

# プロジェクトA

## ～生産者と消費者のかけ橋～

代表者 北島 慎也 (農学部応用生物科学科3年)

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、野菜摂取量の不足という問題に焦点を当てました。野菜不足解消のアプローチとして手軽に野菜が摂取できるように野菜ジュースの開発をして、様々な人に提供しました。また、農業について考えてもらうイベントを計画・実施したものです。

### 2. 実施期間 (実施日)

平成23年8月1日 から 平成24年2月24日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

#### (1) SEED OF TOMORROW

SEED OF TOMORROWとは、農産物の生産から消費までの問題について、様々な立場から直接語り合い考えようとする交流会で、平成23年12月11日(日)に香川大学農学部で開催しました。この準備には、農家を始めとする様々な職業の方が属している団体の「香川元気ネットSEED」と一緒に取り組みました。このSEED OF TOMORROWは3つに分けることが出来ます。



1つ目は、株式会社NOPPOの脇坂さんによる「大学ベンチャーとしてのスタート～農業界への挑戦～」という演題での講演です。2つ目は、野菜ジュースの提供です。これについてはあとで説明します。3つ目は、ディスカッションです。これは、農業に関する様々な問題について様々な人と話し合う場として行いました。このディスカッションの一部のテーマである農薬・遺伝子組み換え食品・野菜の摂取量について説明します。

まず農薬についてのディスカッションを説明します。農薬というと危険というイメージを与えがちです。そのイメージだけで危険と判断されている農薬について正しいことを知



ってもらいたいということでディスカッションをしました。当日は、実際に農薬を使っている農家の方、農薬をあまり使わない農家の方、農業関係の行政の方、主婦、学生といった様々な方の参加がありました。ディスカッションをした結果、農薬は医薬品のようなもので使い方を誤ると毒にもなるし、正しい使い方をすると薬として作用するという結論になりました。

次に遺伝子組み換え食品について説明します。

遺伝子組み換え食品は得体が知れないもので怖いといったイメージがあります。しかし、実際はあまり遺伝子組み換え食品についての知識がなく、なんとなく不安に思っている人が多いというのが現状です。今回はそれを解消したくてディスカッションしました。最初に全員のイメージを聞き、資料を配布し説明した後でどのように意見が変わったかという流れで行いました。ディスカッション後に遺伝子組み換え食品に賛成という意見はなかったものの中立という意見は増えました。このテーマは白黒のつけられるものではないけれど、国や行政は正確な情報をもっと発信し、消費者は正しい知識を得て自分で考えて判断していくことが大切だという結論になりました。



最後に野菜の摂取量について説明します。香川県は野菜の摂取量が全国で最下位になることもあるぐらい少ない県です。このような現状を変えるためにディスカッションをしました。理由の一つとして香川県民がうどんをよく食べるため野菜の摂取が減っていることと野菜の調理方法が分からないということが出てきました。その解決案として、「うどんを食べるときにサイドメニューとして野菜サラダをつけること。」と「食に関する教育を充実させる。」と云う意見が出ました。こういったことを通して野菜の摂取量が増えるのではないかという結論になりました。

### (2) 野菜ジュースの開発

まず、12月のSEED OF TOMORROWで、野菜ジュースを開発し提供しました。そこでアンケートをとり、私たちが開発した野菜ジュースについて意見をいただきました。意見として「おいしい。」や「あまりおいしくない。」など味についての意見や「粘り気が多くて飲みにくい。」など飲みやすさについての意見をいただきました。これらの意見をもとによしむらカフェで提供する野菜ジュースの開発に役立てました。特によしむらカフェで提供する野菜ジュースは、子供が対象であるため飲みやすさに重点をおいて開発しました。

### (3) カフェとのコラボ

SEED OF TOMORROWでは学生や社会人の方々などが対象でした。しかし、今回のプロジェクトの目的である野菜不足解消には、幼いころから野菜をきちんと食べる習慣が身につければ大人になっても野菜を食べ、なおかつ自分の子供にも野菜を食べる習慣



をつけることが出来るのではないかという考えで子供が野菜を好きになるような野菜ジュースを開発して提供させていただきました。ここでよしむらカフェさんに協力していただきました。よしむらカフェさんは吉村さん自らが育てた無農薬野菜を扱っているお店で、来店されるお客さんも野菜について関心の高い方が多いそうです。しかし、子供用のメニューというものがありませんでした。

そこで、子供が野菜を食べる習慣をつけたいという私達の考えを実現させたいということで、よしむらカフェさんに協力していただきました。吉村さんには、実際に野菜を育てている圃場を見せていただいたり、子供用のメニューにつける野菜ジュースの内容を決めるときに私たちが何度も試作品



を作って吉村さんと試飲して内容を決めていきました。最初のころの野菜ジュースはバナナが入っていたためにゲル状になってしまいました。しかし、バナナを除くと甘味がなくなってしまう、飲みづらいものでした。このようにバナナを入れるかどうかが大変でした。それから、甘味を得るためにバナナではなく他の野菜を探しました。そこで見つけたのがニンジンでした。ニンジンだけでは味が物足りないため、吉村さんと試飲していく中で酸味を加えることが必要になりました。様々なものを試した結果、最終的にリンゴを加えて味を良くし、2月20日から提供を始めました。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、普段、農業について関心のない人にも農業について考えてもらえることができたと思います。SEED OF TOMORROWでは、普段お話をすることができない実際に農業をされている農家の方や行政の方などと、農薬や遺伝子組み換え食品などについて、ディスカッションをすることができ、参加された方は貴重な体験ができたと思います。また、今の日本の現状として厚生労働省が推奨する野菜の摂取量である350gから野菜の摂取量が不足しているため、今回、開発・提供した野菜ジュースによって、少しでも野菜の摂取量を増やそうという考えを持った人が増えたのではないかと思います。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回のプロジェクトが私達に与えた影響は2つあると思います。

まず1つ目は、様々な社会人の方との交流です。普段、学校にいるときは学生との交流がほとんどで社会人の方々と接する機会がありません。しかし、今回のSEED OF TOMORROWやカフェとのコラボで実際に農業をされている方々や行政の仕事をされている方々など様々な業種の方々と交流する中で、メールの送り方など些細なことからイベントの内容を話し合っ決めていくことなど色々なことを体験できました。このような体験は普段の学生生活では味わえないことなので今後の学生生活に活かしていきたいです。

次に2つ目は、自分たちで考えて作りだすことの難しさです。野菜ジュースを開発するときにはじめにどの野菜を使ってジュースにするか困りました。また、試作品が出来ても意見がなかなか一致せず苦労しました。日々の生活で同じ課題について解決策を話し合う機会は少ないので良い経験ができました。

そして3つ目には、野菜ジュースを作る中で自分たちの食生活も見直すことができました。厚生労働省が推奨する野菜の摂取量である 350g であることは知っていましたが食べるつもりになっていて、全くそれに達してなかったことが分かりました。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省としては、メールの返信など返答が遅いために多くの方々に迷惑をかけてしまったことが挙げられます。確かに日頃の授業や実験など忙しい環境の中でプロジェクトのことも考えなければならず、様々なことに順序を考えて行動すべきでした。また、メンバー同士の話し合い不足で、共通の知識が共有できず誤解が生じて円滑に進まないこともありました。今後の抱負としては、今回のプロジェクトは農業に視点を当てていたこともあり、農学部以外の学生に影響をあまり与えることができませんでした。

今後は、農学部以外の学生、もしくは、農業に全く関係のない方々などもっと多くの人達に農業について考えていただく機会を作りたいです。最後に、SEED OF TOMORROW を一緒に企画していただいた香川元気ネット SEED さんと別府賢治先生や別府研究室の方々、子供用メニューの提供に協力していただいたよしむらカフェさん、今回のプロジェクトの紹介や親身になって相談にのっていただいた奥田延幸先生に感謝を述べたいと思います。

## 7. 実施メンバー

代表者	北島 慎也（農学部3年）	
構成員	高倉 千尋（農学部3年）	池本 明耶香（農学部3年）
	田中 志歩（農学部3年）	大黒 香奈美（農学部3年）
	富田 遼（農学部2年）	高木 桃子（農学部2年）
	町田 啓太（農学部2年）	藤井 野花（農学部2年）
	小林 恵美（農学部2年）	